

3月27日 「今週の見通し」

先週末に発表された経済指標は、

①米国2月の耐久財受注:コア受注は前月比-0.1%(予想は+0.6%だった)

②米国3月のマークイット製造業PMI・速報値:53.4と2カ月連続の低下、昨年10月以来の低水準(添付資料参照)

となっており、1月がピークで、その後は徐々に低下し始めています。やはり米国景気は1月ごろがピークだったのではないかと思います。

今週は、先週末にオバマケア代替案を撤回せざるを得なくなったことで、トランプ政権への懸念が台頭し、普通なら「ドル安」+「米国株安=期待だけで上がり過ぎていたため」になるものと考えられます。

トランプ政権が掲げていた税制改革や大型インフラ投資の法案も議会で承認を得るのは難しくなっただと思いますし、FBIの捜査でロシアとの関係が事実となれば、支持率の低下も避けられないのではないかと思います。(本日の日経新聞7面のFT紙の記事をご覧ください。)

筆者の今週の見通しは、

①日経平均 16,700円~19,700円

今週はトランプ政権への懸念で「ドル安・円高」となり、米国株も下落するのではないかと予想しておりますので、この影響で日本株も下げるのではないかと予想しております。

なお、28日の午後と29日の午前中には配当の再投資でTOPIX先物の買いが入るものと予想されますので、29日の午前中が売り場になるのではないかと思います。

②NYダウ 17,800ドル~21,200ドル

先週末のトランプ政権の失態で、今週はトランプ政権への政策実行能力への懸念が表面化するのではないかと予想しております。

NYダウも期待だけで上がっていましたので、この期待が剥落し、本格的な調整局面に入る可能性もあるのではないかと予想しております。

また、経済指標も徐々に悪化傾向を示唆することになるのではないかと予想しております。

③ドル・円 106円~114円

先週末のトランプ政権の失態で「ドル安」が進行するのではないかと予想しておりますが、日本では決算期末ですので、公的資金などがドル買い介入する可能性もあるのではないかと

思います。こうした介入でもしもドルが反発すれば、それが売り場ではないかと予想しております。

④ユーロ・ドル 1.04 ドル～1.12 ドル

先週末のトランプ政権の失態で「ドル安」が進行する可能性があります。それで上がればユーロの売り場になるのではないかと予想しております。